

千葉大学「インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開 (II-BEAT)」

成果・実績報告

千葉大学大学院国際学術研究院 縣 拓充

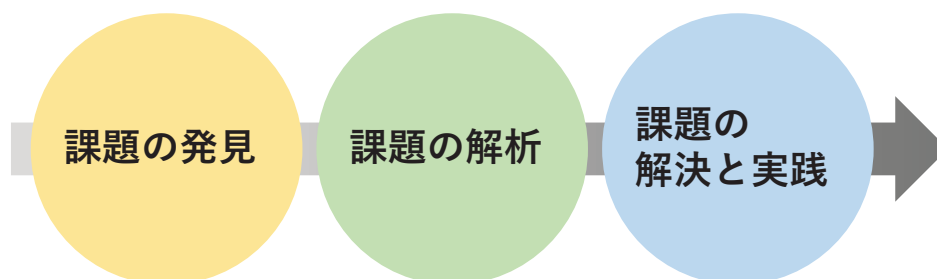
令和6年 2月27日

事業の主旨

「課題解決型人材の育成」を目指して



■事業の主旨：社会課題から考え、かつその課題を深めていく「イシューベースの教育」をさらに推進するカリキュラムの構築



- ✓ 文理を跨いだ多様な学問分野に触れ、幅広い視野を身につける
- ✓ 留学や地域の活動を通じて、体験の幅を広げていく
- ✓ それぞれの課題解決に必要な高度な知識・スキルを、選択的に学ぶ

■千葉大学全体のカリキュラム改革を推進するパイロット学部、「国際教養学部」のカリキュラムを刷新 ⇒ その成果を全学展開

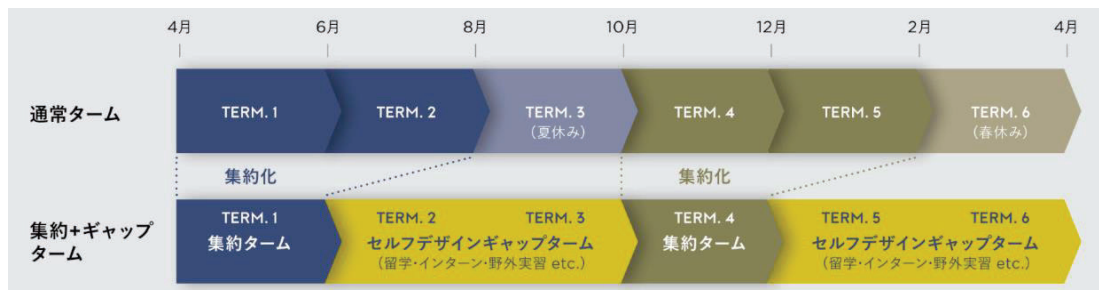
- ◆ 多様な学問領域に触れるとともに、学外での学びや体験を促進する、「メリハリのあるカリキュラム」
 - ・ ターム制を発展的に活用し、3年次のカリキュラムを「集約ターム」と「セルフデザインギャップターム」を組み合わせたかたちに刷新
- ◆ 特定の 이슈をインテンシブに学ぶ「モジュールコース」
 - ・ 共通したテーマを扱う複数教員が連携し、 이슈に関する多角的な視点をインテンシブに学ぶコースを新設
- ◆ 個々の学生が学びの内容をカスタマイズする「セルフデザインギャップターム」
 - ・ 多様な「特別プログラム」や、学外での学びを単位化する「自己設計科目」

3

成果①

メリハリのあるカリキュラムを構築

■3年次、6ターム制（夏休み、春休みも含めて6ターム）を発展的に活用



■T1, 4「集約ターム」：必修科目を重点的に置く

- ・ 横断する学問領域の教員による連携的かつ集約的な講義，演習を行う

■T2-3, 5-6「セルフデザインギャップターム」：必修科目は置かない

- ・ 留学・インターン・野外実習等の学びを，個々の学生がカスタマイズ

4

「インテンシブ・イシュー教育プログラム」(II-BEAT)の取り組み 全体像



必修科目を集約しての
領域横断型の学び

個々の学生が
学びの内容をカスタマイズ

必修科目を集約しての
領域横断型の学び

個々の学生が
学びの内容をカスタマイズ

**クロスメジャー
プロジェクトI**

- 多様な社会課題・学問分野に触れ、それぞれのイシューに取り組むための発想の基礎を学ぶ
- 計15のプログラムから2つ以上を受講
- 週2回開講

特別プログラム

- それぞれのイシューの探究に必要となる、専門的知識・スキルを深める
- 地域でのPBL型の活動や、実験・実習など

自己設計科目

- 社会・現場での体験的な学びや活動を、単位として認めていく仕組み
- インターン、学外でのワークショップなど

通常の授業、海外留学、その他

- 通常の授業の他、ギャップタームを利用して、長期の海外留学にも行きやすく

モジュールコース

- 4つのテーマについて集約的に学ぶ
- 科目A：総合化科目
- 科目B：インテンシブ・イシュー各論
- 科目C：必修（CMP II）
- 科目BCは週2コマ開講

モジュール以外の
テーマの探究

科目A：受講可
科目B：受講制限
科目C：必修（CMP II）

特別プログラム

- それぞれのイシューの探究に必要となる、専門的知識・スキルを深める
- 地域でのPBL型の活動や、実験・実習など

自己設計科目

- 社会・現場での体験的な学びや活動を、単位として認めていく仕組み
- インターン、学外でのワークショップなど

通常の授業、海外留学、その他

- 通常の授業の他、ギャップタームを利用して、長期の海外留学にも行きやすく

成果②

インテンシブに学ぶ「モジュールコース」を設置

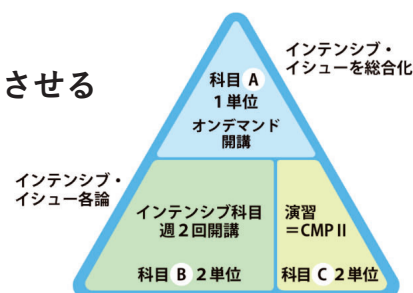


■ 「モジュールコース」

◆ 特定のイシューについて、多角的な視点からより深く探究させる目的で、共通したテーマをもつ科目群を集約し、同時開講

- 科目A：総合化科目
- 科目B：インテンシブ・イシュー各論
- 科目C：演習（クロスメジャープロジェクトII）

→科目B・Cはそれぞれ週2コマ開講



モジュールコース履修学生は科目A、B、Cが必須

テーマ	移民・難民論研究	地方・地域振興研究	総合環境科学研究	スポーツ振興研究
科目A 総合化科目	NGO・NPO論	地方創生論	科学と社会的意思決定	地方創生論
科目B インテンシブ科目	フィールドから学ぶ	千葉の地域資源と活用	社会と科学技術の界面	スポーツとまちづくり
科目C 演習=CMP II	移民・難民特別演習	地方・地域振興特別演習	総合環境科学特別演習	スポーツ振興研究特別演習
R4受講者数	9名	13名	12名	(R5新設)

セルフデザインギャップタームの運用



■ 「セルフデザインギャップターム」

- ・ 個々の学生が取り組む課題に応じて、自ら学びの内容をカスタマイズ

◆ 「特別プログラム」

- ・ 各教員が、学生のメジャープロジェクトを意識して開講
- ・ 地域でのプロジェクト型の活動や、高度な実験手続きを集中的に学ぶプログラムなど

◆ 「自己設計科目」

- ・ 自分で見つけて参加する学外のインターンシップ等への参加を、単位認定していく仕組み
- ・ 教員や学習支援スタッフSULAが、学生による計画を事前チェック・指導

◆ 留学，フィールド調査，集中講義や専門科目の受講，etc

7

R4 特別プログラム一覧



ターム	プログラム名	担当者	単位数	受講者数
T2-3	環境・生物多様性プログラム	上原 浩一・永瀬 彩子	1	7名
T2-3	身体活動量と睡眠データの分析	小泉 佳右	0.5	4名
T2-3	唾液中コルチゾール分析	小泉 佳右	0.5	5名
T2-3	植物細胞の単離と培養	渡辺 正巳	0.5	2名
T2-3	植物の機能性成分の分析	渡辺 正巳	0.5	1名
T2-3	照明がもたらす感情効果	田中 緑	1	2名
T2-3	光科学基礎実験	三野 弘文	1	4名
T2-3	墨田区のものづくり企業とSDGsまちづくりのブックレットデザイン	田島 翔太	2	8名
T2-3	「脱炭素・未来ワークショップ」ファシリテーター	鈴木 雅之・倉阪 秀史	1	9名
T2-3	横芝光町タウンプロモーション動画制作（夏バージョン）	鈴木 雅之	2	5名
T2-3・5-6	コミュニケーションで創る「再生医療の未来」	東島 仁	1	2名
T5-6	無酸素性作業閾値測定	小泉 佳右	0.5	4名
T5-6	環境・生物多様性プログラム2	上原 浩一・永瀬 彩子	1	3名
T5-6	仮想空間内におけるデジタル教材・マニュアルづくり	小泉 佳右	0.5	4名
T5-6	可搬型移動建築の地域活用	田島 翔太	2	2名
T5-6	松戸SDGsまちづくり	田島 翔太	1	4名
T5-6	仮想現実を用いた地域活性化（長柄町編）	田島 翔太	2	3名
T5-6	フィールドワーク準備演習	和田 健	1	4名
T5-6	グローバル社会における日本語コミュニケーション	佐藤 尚子・吉野 文	1	5名

■ 問題解決に関わる学びの成果を可視化

- ・ 問題の発見から解決までの各ステップを確認する、メジャープロジェクトルーブリックを開発・試行

